

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4691300018
法人名	社会福祉法人 百合砂
事業所名	グループホーム はまんだ
訪問調査日	平成20年3月2日
評価確定日	平成20年3月31日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4691300018		
法人名	社会福祉法人 百合砂		
事業所名	グループホーム はまんだ		
所在地 (電話番号)	西之表市西之表6602-1		(電話) 0997-23-3992
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島		
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号		
訪問調査日	平成20年3月2日		

【情報提供票より】(平成20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年6月10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	7人, 非常勤 4人, 常勤換算 8.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,750 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり		

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.7 歳	最低	74 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田上病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

海岸沿いの道から少し入った場所に建てられたホームである。開設から1年に満たないが、同一法人内でグループホームや介護老人福祉施設、その他の在宅サービス事業を行っており、研修をはじめとする連携体制が整備されている。入居者の表情は明るく、それぞれのペースで生活することができ、落ち着いた時間が過ごせる環境作りがなされている。入居者同士、また入居者と職員が、お互いに支えあって暮らしている、アットホームで信頼関係の感じられるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回は初回のため該当なし。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員は評価の意義を理解し、ミーティング等の時間を利用し、様々な立場の職員がそれぞれの視点で自己評価を行っている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者、ご家族、地域住民や行政の関係者が参加し、3ヶ月に1回のペースで開催している。会議ではホームからの報告や意見交換が行われ、その中で地域住民との関係作りを働きかけ、地域に密着したホーム作りへの取り組みがなされている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱や第三者委員会の設置、重要事項説明書への苦情の対応及び担当者の記載がある。年に数回行われるご家族参加の行事の際に、ご家族が意見や不満、苦情を言いやすいように働きかけている。
重点項目 ⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	鉄砲祭りや地域の納涼夏祭り、運動会などに積極的に参加している。地域の方々にもホームに来ていただけるように働きかけているが、今のところ実現はしていない。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に、法人理念をもとに、職員で話し合いを行い理念が作成されている。理念は、玄関横や和室に掲げられるとともに、広報誌の中にも記載されている。		これまでの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容を検討していただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング開催時に、管理者が理念に基づいた話を行っている。日頃のケアの中でも随時、説明等を行い、実際のケアに繋がるように働きかけが行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	鉄砲祭りや地域の納涼夏祭り、運動会などに積極的に参加している。地域の方々にもホームに来ていただけるように働きかけているが、今のところ実現はしていない。	○	地域活動への参加を継続するとともに、ホームへの来訪を促すなどの働きかけを通して、お互いに行き来ができるような関係を築いていただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は評価の意義を理解し、ミーティング等の時間を利用し、様々な立場の職員がそれぞれの視点で自己評価を行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、ご家族、地域住民や行政の関係者が参加し、3ヶ月に1回のペースで開催している。会議ではホームからの報告や意見交換が行われ、その中で地域住民との関係作りを働きかけ、地域に密着したホーム作りへの取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者から、地域の勉強会講師の依頼やキャラバン・メイト養成研修受講の依頼を受けている。またホーム側からも、市担当者にいつでも気軽に相談ができる関係作りがなされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回請求書を送付する際に「はまゆう」(ホーム便り)を添え、1ヶ月間にあった行事や日々の入居者の表情を写真入りで伝えている。健康状態は状況に応じて電話で連絡するようにしている。金銭管理については、ご家族の来訪時に確認印をもらうようにしている。	○	遠方であるため頻繁に訪問できないご家族もおられる。定期的に金銭出納状況をご家族に確認していただけるように、報告の方法を検討していただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や第三者委員会の設置、重要事項説明書への苦情の対応及び担当者の記載がある。年に数回行われるご家族参加の行事の際に、ご家族が意見や不満、苦情を言いやすいように働きかけている。		苦情に限らず、希望や提案なども記録に残して、今後の運営に反映していただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在まで職員の異動はない。今後法人内での異動が予定されているが、入居者が安心して職員の異動を受け入れることができるように、時期の検討を行い配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修、法人で行われる定期的な研修、ホーム内で必要に応じて行われる勉強会と、研修を受ける機会は確保されている。		職員の段階に応じた研修内容の検討と、年間計画を作成することによって計画的な研修が行われることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内のグループホームとの交流はあるものの、他の同業者とのネットワーク作りは十分とは言えない。	○	地域のグループホームや同業者とのネットワーク作りや勉強会、相互訪問等を行い、サービスの質がさらに向上されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の際には、可能な限りご家族や本人に見学に来ていただくよう働きかけている。また、急な入居で本人の不安感が強い場合は、ご家族や知人の面会頻度を多くしてもらうように協力していただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から、昔の唄や食事のマナー、畑仕事等を教えてもらいながら、過剰なサービスを行わず、入居者のペースを尊重することで、時間や喜怒哀楽を共有し支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご家族や本人からの情報収集を行い、希望や意向の把握を行っている。具体的に表出が困難な場合でも、本人の様子や動作から推測しながら、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、本人、ご家族、その他関係者の意見を取り入れながら作成されている。また、ミーティング時に職員からの意見やアイデアを収集し反映する体制がある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	認定の有効期間にあわせて見直しを行うが、入居者の状況変化に応じて、随時、必要な関係者、スタッフと話し合い、現状に即した計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人とご家族の良い関係が継続できるように、遠方のご家族のホームへの宿泊やお盆・正月の外泊を行っている。医療機関受診の支援も行っており、適切な医療が受けられるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者やご家族の希望をもとに、かかりつけ医が決められている。協力医療機関との連携もとれており、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居開始時に終末期の希望を本人、ご家族に確認し、その後も状況の変化に応じて関係者で話し合い、本人、ご家族の思いを把握し共有できるように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の生活歴等を考慮した上で、言葉かけや対応に配慮がなされている。カルテや記録等の個人情報の取り扱いについても、カーテンで目に触れないようにするなど、保管方法に工夫が見られる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望を聞き、その日の健康状態や天候を考慮しながら畑やドライブなどに出かけ、日課にとらわれない生活が送れるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近くの畑で作った野菜を使用した料理が食卓に並び、それを話題にしながら、入居者と職員が楽しそうに食事の時間を過ごしている。入居者のできる事を理解し、その人に応じた作業を促し、準備、片づけを一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴を希望される方には、希望に沿えるように支援している。入浴を拒否される方に対しては、入浴した日を記録し、声かけのタイミングや方法を検討して、2～3日に1回は入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時の聞き取りにより生活歴の把握を行い、生け花や野菜作り、カラオケや裁縫・家事等、一人ひとりの力に応じた役割を持ち張り合いのある生活が送れるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食事の材料購入のために、スーパー等に毎日出かけている。その日の天候や入居者の希望で、ドライブや近くの畑での野菜の収穫など、外出の支援を積極的に行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害は理解され、入居者が外に出られそうなどときには職員と一緒に出かけるようにしている。基本的に、日中の施錠は行われていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間の火災想定での避難訓練や、実際に消火器を使用しての消火訓練など、年2回の防災訓練を行っている。		運営推進会議等の際などに、近隣からの協力が得られるような働きかけを行っていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、一人ひとりについて毎日記録をしている。糖尿病の方が多いため、同一法人の施設の栄養士から献立に対する指導、助言をもらい、適切な食事が提供できるように努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者に花を活けてもらい、季節感が味わえるようにしている。ゆっくりくつろげるようにソファを設置しており、不快な音や光がないように配慮がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族と話し合いが行われ、ベッド、箆笥、鏡台、位牌、ご家族の写真等、使い慣れたものが持ち込まれ、安心して落ち着いた生活を送れるように工夫している。		